

令和3年度第1回 神戸市歯科口腔保健推進検討会 議事要旨

1. 日時 令和3年7月9日（金） 19:00～20:30

2. 場所 三宮研修センター 8階 805号室

3. 出席者 足立会長（現地）

下記の委員（または代理）20名についてはWEB参加（50音順）

岩本委員、栗原委員、櫻井委員、末瀬委員、杉村委員、高木委員、高橋委員、
高見委員、田口委員、武貞委員、竹信委員、坪田委員、中田委員、西尾委員、
三代委員、宮本委員、百瀬委員、山口委員、山本委員、記村勝之氏
（中谷委員代理）

4. 議事次第

議題

- (1) 「こうべ歯と口の健康づくりプラン（第2次）」の取り組み状況について
- (2) オーラルフレイル対策事業について
- (3) 小学校でのフッ化物モデル事業について
- (4) 令和3年度 歯科口腔保健推進関連会議等スケジュール（予定）について

報告

- (1) 地域包括ケア推進部会「多職種連携による口腔機能管理に関する専門部会」
- (2) 訪問歯科診療・訪問口腔ケア実施状況
- (3) 口腔がん検診実施状況
- (4) その他、情報交換等

5. 開会

局長挨拶

歯科医師会の先生方には、神戸市民へのワクチン接種について、ご協力いただき、ありがとうございます。現在ファイザーのワクチンが供給量が無いので、少し混乱した状況です。ワクチン接種のご依頼をした当初、神戸市が入院調整でひっ迫していた状況で、自宅や施設で亡くなる方があり、繰り返さないために、とにかく高齢者への接種対策を早くしたいとお願いをさせて頂き、歯科医師会の先生方のご協力を頂きました。ご協力のおかげで、現時点で重症化リスクの高い高齢者の8割のワクチン接種が終わっています。

本日の主な議題は3点、「こうべ歯と口の健康づくりプラン（第2次）」の取り組み状況について、オーラルフレイル対策事業について、小学校でのフッ化物モデル事業についてです。どうぞよろしく申し上げます。

会 長：この検討会は、平成 28 年の神戸市歯科口腔保健推進条例施行を受け、開催されてから 6 年、幾多の提言を出してきた。それによって神戸市民の口腔保健の向上が見られている区もあるように思う。今後はコロナの災いを乗り越えて、神戸市民の健康寿命、口腔保健等に寄与できますように建設的なご意見をお願いします。この 1 年半、医療界全体に厳しい課題を抱えたが、意見交換できるのは嬉しい。新しい市歯科医師会の百瀬会長より一言お願いします。

委 員：平成 28 年 11 月、懸案であった神戸市歯科口腔推進条例がと、それに伴い 2 つの協議会ができました。検討会は、条例の第 7 条を根拠に開催していますが、歯科口腔保健推進には歯科医療関係者、保健医療関係者との協議が必要ですので、忙しい中ですが、色々のご意見を賜りたいので、よろしくお願い致します。令和 2 年、3 年は、コロナの影響で様々な事業が休止や中止になりましたが、市民への事業や、こうべ歯と口の健康づくりプラン（第 2 次）を施行するに当たっては、大きな支障や進捗の遅れは可能な限り避けなければならない。コロナ対策は最優先だが、口腔保健対策の各種事業も可能な限り前へすすめればと思います。皆様の貴重なご意見をよろしくお願い致します。

6. 議事

(1) 「こうべ歯と口の健康づくりプラン（第 2 次）」の取り組み状況について

事務局より、資料 1 「令和 2 年度歯科口腔保健に関する施策の実施状況報告」説明

委 員：各区の取組みが資料にあるが、P35 兵庫区歯科医師会として北区と同様、新聞折込の啓発もしているが掲載がない。この情報は、誰がどこで調査しているのか？

事務局：記載漏れがあり申し訳ございません。情報は、各区から各区歯科医師会へも問合せをお願いしている。

委 員：区に聞いても分かっていない。各区歯科医師会にも聞いてほしい。

事務局：今後しっかり問合せして把握する。

会 長：P12 学齢期の 12 歳児のグラフ、経年的にみて、中央区は増えている、長田区は減っているが、何が理由は考えられるのか？

委 員：特に思い浮かばない。よく検討してみます。

委 員：長田区が減っていることを知った。思い当たることはないが、学校検診で感じるのはむし歯が減っていること。長田区の環境が変わったのかと感じている。

事務局：長田区では「ハッピーむし歯予防事業」の取組みをしている。歯科医師会と神戸常盤大学も一緒になり、学校への健康教育を行うなどしている。

会 長：取り組むことで結果が出ているということですね。

委 員：コロナで、令和 2 年度は色々と影響があったが、妊婦歯科健診の受診率は、案外落ちなかった、妊娠数も少なかったかと思うが、妊婦健診の受診率はどうか？

事務局：特に、歯科以外の妊婦健診も産婦健診も受診率は落ちていない。

(2) オーラルフレイル対策事業について

事務局より、資料2「オーラルフレイル対策事業について」説明

動画 30 秒バージョン放映。長いバージョンのトレーニング部分のみ放映。

会 長：委員は、動画作成に中心になっていただいたが、いかがか？

委 員：65 歳という年齢はまだまだ若い年齢、高齢者の入り口であるので、価値がある。フレイルは口腔機能の維持という啓発をしっかりとすることが必要なので、市歯科医師会として動画を作ったが、受診率を上げたり、出口対策をどうするかを、迷っている。

会 長：まだ若いので実感がわからないということか？

P45 の概略図にもあるように、最終目標は、健康寿命の延伸につなげていく、介護予防事業と相互に連携できる仕組みを作ること。一方、歯周病検診を受けて頂き、歯を残す、つまり歯科医院への受診を増やすことが重要である。

委 員：薬局でのフレイルチェックはどのくらいの受診があるのか？

事務局：令和2年度は、薬局に加え集団検診会場で 11.5%の利用率。対象は 65 歳と、前年にチェックを受けた 66 歳。

委 員：オーラルフレイルの案内も、同じ方は関心あるだろうから。

事務局：両方受けるのが効果的なので、セットで受けられるように啓発していきたい。

委 員：兵庫県歯科衛生士会では、「50 歳になったらオーラルフレイル予防」としてリーフレットを作成した。区の先生方にもお届けしている。西宮でもコロナ禍で、特定健診の事業所で活用。60 歳 70 歳も必要だが、早い段階での取組みが必要かと思っている。ホームページは今調整中だが、そちらからダウンロードできるようにしているので活用してほしい。

会 長：50 歳からの取組みとのこと。早い取組みは同意見です。40 歳歯周病は、受診率が低い。60 歳は少し上がっている。時間的余裕もあるが、もっと画期的な対策が必要ではないか？啓発をすすめて、オーラルフレイルチェックをして、治療が必要なのか、トレーニングなのか、まずはチェックに参加する必要がある。どこかにつながる仕組みを考えていかなければならない。

委 員：65 歳歯周病検診を設定してほしいと市に要望したが、国の健診が 10 歳刻みなので、できないと言われた。60 歳あたりの年齢でないと歯周病にピンとこない。とにかく受診してもらわないと。あの年代にターゲットを絞って、色々な検診を用意するというのは良い。65 歳でも歯周病検診を実施していただきたい。

事務局：昨年度に 60 歳歯周病検診を開始。50 歳歯周病も少しずつ伸びた。同日治療を可能にしたことで、治療にもつながり、受診率も上がった。節目年齢にならねば、3 分の 1 の国庫補助金はない。65 歳ではオーラルフレイルの可能性が 80%。まずは、60 歳歯周病検診と 65 歳オーラルフレイルチェックを定着させたい。

会 長：オーラルフレイルチェック事業と歯周病の抱き合わせも考えられる。自営業の人は受診しにくいのか、兵庫と長田あたりは低い。引き続き、検討を。

(3) 小学校でのフッ化物モデル事業 について

事務局より、資料3「小学校でのフッ化物モデル事業について」説明

委員：資料の内容が新しくなっていない。日程が古い。今後の見通しとして詳しく説明して欲しかった。

事務局：まだ確定していなかったなので、進捗状況を報告する。

5月に様々計画していたが、コロナのため、2学期当初に延期になった。両校とも打ち合わせをしている。保護者説明会は、授業参観日に併設予定。名倉小学校は9月10日（金）、浜山小学校は9月14日（火）。この場で、保護者に説明し、同意書を取り、シルバー人材センターの研修も実施予定。10月以降でフッ化物洗口の実施を考えている。

委員：保護者説明会では、参加されない保護者もあるのではと思うので、なるべく全員参加を目指してほしい。保護者に渡す案内や承諾書を作成する段階で参画したい。

事務局：たくさんの方に説明会に参加いただきたいが、100%参加は困難かと思っている。紙ベースになるが、しっかりフッ化物洗口の重要性を説明し、同意書をいただきたい。歯科医師会と協力していきたいので、よろしくお願いします。

委員：名倉小学校の職員説明会時には、強い反対があったが、学校としての受入れ体制はどうか？反対の先生には校長からもしっかりと説明してほしい。外部人材を学校に入れることもデリケートな問題、シルバー人材の人選も必要かと思う。しっかりとした規定を定めて選別して、対応していけばどうか。

事務局：教員の負担等の意見も頂いたが、色々な関係団体とともにやっていく、有意義なものであると教員には理解を求める。セキュリティもしっかり考えて安全なものにしたい。

委員：今後の事業展開を考えると、現場の教員の理解が重要。今後、神戸市全体に広がるように、モデル事業はしっかり協力してやっていきたい。

(4) 令和3年度 歯科口腔保健推進関連会議等スケジュール（予定）について

事務局より、資料4「令和3年度歯科口腔保健推進関連会議等スケジュール（予定）」説明

7. 報告事項

(1) 地域包括ケア推進部会「多職種連携による口腔機能管理に関する専門部会」について

事務局より、資料5「地域包括ケア推進部会「多職種連携による口腔機能管理に関する専門部会」について」説明

会長：アンケートの結果から、歯科医院には歯科衛生士がいないとなっているが、歯科衛生士会からご意見いかがか？

委員：訪問口腔ケアをする歯科衛生士がいない。今日、ある歯科医師から自院の歯科衛生士の研修会を受講できるかとの問い合わせがあった。歯科医院に歯科衛生士がいても訪問ができないとか、歯科医師からは依頼がないとも聞いている。歯科衛生士会としては研修等をしている。目標に応えられるように人材を育成したいと思っている。

委員：歯科衛生士の問題はあらゆる事業で出てくる問題。それらの問題を解決するべく訪問口腔ケア事業がある。しかし、利用者が少ない。知名度が低い。もっと拡充していきたい。コロナ禍で研修会もできなかった。活動できる歯科医師や歯科衛生士を育成したいが、自院のスタッフ出すのは難しい面もある。その解決策として事業を拡充していきたい対策を探りたい。

（２）訪問歯科診療・訪問口腔ケア実施状況について

委員：最終的には訪問口腔ケアは、令和２年度実施状況総数が 998 回。緊急事態宣言が出た時には訪問を慎重にならざるを得ないということもあり、兵庫県歯科衛生士会とも訪問間隔や訪問対象の選別など様々なことを協議したが、微増している。

（３）口腔がん検診実施状況について

委員：口腔がん検診は、４月５月と一時、コロナ禍で休止していた。市民の意識啓発の意味合いも大きい。市民向け公開講座を予定していたが開催できなかった。今年度はぜひ開催したい。歯科は、不要不急に格付けされたが、必要なことは必要であったということが実証されたと考えている。

委員：口腔がん検診は中止期間があり、例年より 100 名減っている。局長より口腔がん検診は年齢制限してないがどうかと訊かれたが、昨年度の実績では、20～30 代の受診者は 2～3 %、本当に心配な人が来ているので意味がある。このままでいいのではないか。

（４）その他、情報交換等について

委員：兵庫県歯科衛生士センターを作っているのので、診療所の歯科衛生士の登録をお願いしたい。

事務局：声が聞こえにくく、申し訳ございません。時間の関係で、発言なかった方、メールでご意見をお願いします。また、先程の資料等があれば、事務局に提供していただければ先生方に提示できるので、ご協力ください。

8. 閉会